

モデル事業名	「美しく安全な国土の管理・継承」に向けた、地域事業者、地域住民、行政、NPO等との連携・協働による『食と農、農地の再生』事業及び賑わいと魅力と持続性ある『ふるさとの風景づくり活動』推進事業
活動団体名	特定非営利活動法人地域再生研究センター、竹万あゆみ協議会
ホームページ	http://www.rireg.jp
所属/担当者名	地域再生研究センター事務局 兼 主任研究員 井原 友建 (いはら ともたけ)
連絡先	TEL: 078-230-0220 E-mail: info@rirej.jp
活動地域	兵庫県赤穂郡上郡 町 竹万地区ほか

● 活動地域の概要

- ・竹万地区の人口：H12 国勢調査 222 世帯 644 人、H17 国勢調査 223 世帯 636 人 ↓減少傾向
- ・竹万地区の高齢化率：H12 国勢調査 24.1% (65 歳以上人口 155 人)
H17 国勢調査 26.9% (65 歳以上人口 171 人) ↑増加傾向
- ・竹万地区の若年層の割合：H12 国勢調査 12.4% (15 歳未満人口 79 人)
H17 国勢調査 11.0% (65 歳以上人口 70 人) ↓減少傾向
- ・竹万地区周辺の公共交通機関の状況：JR 山陽本線上郡駅から徒歩約 15 分に立地。幹線道路としては、当該地区の区画整理事業区域内に主要地方道姫路上郡線が通る。
- ・竹万地区の産業の状況：区画整理事業区域内に大型商業施設（マックスバリュ、ナフコ、ダイソー、JA 農産物直売所「旬彩蔵」等）が立地。農業はほとんどが零細（1 農家あたり 50a まで。区画整理事業区域内農地約 2ha、市街化調整区域内農地約 4ha、集落内耕作放棄地 2ha 強）。



● 活動地域の課題

- ・地域内外から様々な事業者、事業者の出店により、沿道型の商業集積が進みつつあり、事業者と消費者（地域住民）との交流も見られつつあるが、この動きは、まだ一部の事業者と地域住民との間のものでしかなく、地域全体の賑わいづくりや魅力づくりへの動きには至っていない。
- ・多くの農用地が見られ、古くからの農村風景も残しており、地産地消による農地の再生や、農家と消費者との交流も始まっているが、都市基盤の整備に伴い、耕作放棄地の増加や農地の減少が進み、ふるさとの風景が失われつつある。
- ・このような実状の中で、「竹万あゆみ協議会」は、地域で営む農業者・事業者として、地域の再生と持続的な発展（賑わいづくり、魅力づくり、環境づくり）に貢献するという崇高な理念のもとに、自主的に集い、組成し、取り組みを進めつつあるが、構成員のボランティア精神（人的資源）や会費収入（金銭的）のみの取り組みには限界がある。
- ・地域の事業者と地域住民等との連携・協働のもと、農地を有効に活用した地産地消や地域の賑わいづくり、魅力づくり、環境づくりを進め、耕作放棄地の増加の抑制によるふるさとの風景の維持保全を図ること、地域の環境と経済の好循環による自立した持続性のある地域の環境づくりの仕組みを構築することが大きな課題である。

● 活動の内容

・平成 20 年度

- ①「美しく安全な国土の管理・継承に向けた地域内循環事業スキームの構築及び事業計画の策定」
- ②「地域の福祉、教育と一体となった農地の利活用によるふるさとの風景の維持保全活動の実践」

【具体的実施内容】農業体験事業の企画・実施、コミュニティ・ビジネス研修、持続的な事業スキームの研究・構築、事業計画の立案

・平成 21 年度

- ①農地や食等の地域資源を活用したコミュニティ・ビジネス起業による、地域主体の持続型地域活性化・地域管理活動資金調達事業及び新たなまちづくり活動団体組成事業、コミュニティ・ビジネス事業計画及び工程表作成
- ②都市農村交流・大学等との連携による多様な担い手参画型農業体験及び農地再生・活用事業

● 活動の成果

・平成20年度

①地元農家直営農産物直売所の売上増加

従前 3,000 円/日 → 事業実施 29,000 円/日

(都市住民等の新たな消費者を地域に迎え入れることで、売り上げが飛躍的に増加することが実証された。)

②地域外利用者への農地開放箇所数の増加

従前 ほぼ0 箇所 → 事業実施 3 箇所

(耕作放棄地、休耕田の活用による農村景観、地域景観の保全の可能性が広がったと思われる。)

①自治会活動外での公民館利用回数の増加

従前 ほぼ0回/月 → 事業実施 2 回/月

(公民館利用料徴収=自治会収入の増加もあり、地域自治活動の拡充等へ繋がるものと思われる。)

- ・コミュニティ・ビジネス研修については、地域の女性グループ(料理教室の先生と生徒)を巻き込むことができ、事業計画の実現の可能性が高まった点では想定以上の成果であった。



● 平成21年度

【活動内容】

- ・地域リーダー養成講座の開催(連続3回講座、11/1, 8, 22 開催、佐用町等の町外からも参加者あり)
- ・農業体験事業、農地オーナー確保(現在、阪神間より6グループ参加中)
- ・都市農村交流事業の調査分析(兵庫県立大農村計画学研究室との連携)



● 今後の課題及び展望

・課題

- ・地域住民・地域事業者が連携をより緊密にして地域づくりに取り組むことへの意識が醸成されつつあることから、さらに地域全体の大きな広がりある取り組みへと高めるために、引き続き各種事業の具体的な活動を通じて、地域活動の定着化・普及啓発に努める必要がある。
- ・平成20年度事業では、延べ100名以上の都市住民及び地域住民の参加があったが、イベント的な一過性の感が否めなかったことから、今後は、これらの人材が地域活動の担い手として継続的に関わる取り組みへと進める必要がある。
- ・土地区画整理事業により市街化がみられる地域であるが、もともとは古くからの農村地域・農村集落であり、特に自治会(地縁)組織の硬直化(所謂、古い考え方を持つものが一部にある)しているところがある。このようなことから、新たな動き(取り組み・活動など)に対して、批判的(多くは単なる僻みと捉えられる)な意見もあり、地域に十分に浸透した活動にまで至らなかった点は惜まれるところであり、実施主体としての大きな反省点でもある。
- ・地域や民間主導での取り組み、まちづくり活動の素地は出来上がりつつあることから、それを何らかの形でサポートする行政サイドの動きの確立が課題といえる。特に当該地域における本事業の推進にあたっては、当該町行政の関与はほとんど皆無であったことから、今後の関わりについては、双方で十分に調整・検討し、地域活性化の取り組みを大きなものとしていくことが次の目標である。

・展望

- ①京阪神間から車・鉄道で1~2時間程度という立地特性を活かした持続的交流活動(農業体験)と、そこから得られる農産物等を活かしたコミュニティ・ビジネスの展開、さらにこれらの事業を通じた地域課題解決という、各種事業が全て連動したものとして進めることで、早急に取り組むべき農村地域の再生、国土の保全管理に一気に繋げたい。
- ②これまでは行政主導や地域外の専門家NPO等の支援を受けながら様々な活動に取り組んできたが、本事業を通じて、住民・事業者・団体が構成される新たな事業実施団体を組成し、これを地域の新たなリーダーが中心となって運営していくことで、地域が自らの力で立ち立って様々な地域課題解決に挑戦していきたい。
- ③本事業での取り組み実績・ノウハウを、当該自治体(上郡町)全体、さらには兵庫県の西播磨地域全体の課題解決にも繋げていきたい。